

神よ、誉れあるみ子は、パンを裂くみ姿のうちに、ご自身を弟子たちに示されました。み恵みによって、わたしたちの信仰の目が開かれ、贖いのすべてのみ業のうちに主を見いだすことができますように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 比ちようがっこう
〒153-0053 目黒区五本木2-20-1
でんわ: 03-3710-6031

発行日
2023年
4月23日

今週の聖書 ルカによる福音書 24:13 ~ 35

13 この日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村に向かつて歩きながら、14 この一切の出来事について話し合っていた。15 話し合い論じ合っている、イエスご自身が近づいて来て、一緒に歩いて行かれた。16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。それで、二人は暗い顔をして立ち止まった。18 その一人のクレオパと言う人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。20 それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡し、十字架につけてしまったのです。21 私たちは、この方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。22 ところが、仲間のわたしが私たちを驚かせました。わたしが朝早く墓へ行きますと、23 遺体が見当たらないので、戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言っています。24 それで、仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、わたしが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。25 そこで、イエスは言われた。「ああ、愚かです。心がか鈍く、預言者たちの語ったことすべてを信じられない者たち、26 メシアは、これらの苦しみを受けて、栄光に入るはずではなかったか。」27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたって、ご自分について書いてあることを解き明かされた。28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いています」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に



聖書からのメッセージ 『弟子たちの決意』 司祭 池 星照

今日の福音書は、二人の弟子がエマオという村へ向かって行く道で、復活なさったイエス様にお会いする場面が紹介されています。この二人の物語を通して私たちが心に銘じなければならないことは何でしょうか。二人の弟子はイエス様と一緒に歩いたにもかかわらず、その人がイエス様だと分からなかったのです。イエス様がパンを裂かれたとき姿を分かるようになりました。すると二人の弟子は、すぐにエルサレムに戻りました。エルサレムは彼らがイエス様と共に神様のみ業を成し遂げるために入城なさった所です。その場所にすぐに戻ったということは、これから迫って来る恐ろしく難しいことも信仰を持って立ち向かって行こうという決意を見せてくれたことです。私たちに必要なことは、まさにこれです。どのような試練と苦しみがあっても信仰によって打ち勝って行こうという決意です。

泊まるために家に入られた。30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、祝福して裂き、二人にお渡しになった。31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。32 二人は互いに言った。「道々、聖書を読みながら、お話しくださったとき、私たちの心は燃えていたではないか。」33 すぐさま二人は立って、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、34 主は本当に復活して、シモンに現れたと言っていた。35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったとき、私たちにイエスだと分かった次第を話した。